



ONE PLANET
CITY CHALLENGE

ワン・プラネット・シティチャレンジ ONE PLANET CITY CHALLENGE (OPCC)

～地球1個分で暮らせる都市づくり～
参加自治体への手引書 2023-2024

WWF ジャパン



© naturepl.com / Doug Gimesy / WWF

目次

ワン・プラネット・シティチャレンジ（OPCC）とは？	3
OPCC における 6 つの段階	4
パリ協定の野心に沿うために	7
気候変動対策計画の証拠に基づく評価	8
戦略的フィードバックレポート	9



ONE PLANET
CITY CHALLENGE

本手引書は、WWF スウェーデンが作成した「PARTICIPANTS BOOKLET WWF'S ONE PLANET CITY CHALLENGE 2023-24 Information for joining cities」の抄訳に一部補足説明を加えたものです。原文は[こちら](#)をご覧ください。

OPCC 全般についての問い合わせ

WWF ジャパン Email: climatechange@wwf.or.jp

WWF スウェーデン OPCC チーム Email: opcc@wwf.se

CDP-ICLEI Track への登録や報告に関する問い合わせ

一般社団法人 CDP Worldwide-Japan Email: cities.japan@cdp.net

一般社団法人イクレイ日本 Email: iclei-japan@iclei.org

ワン・プラネット・シティチャレンジ (OPCC) とは？

ワン・プラネット・シティ・チャレンジ (OPCC) は、WWF が 2 年に 1 度開催する自治体の気候変動対策の国際コンテストです。参加自治体の気候変動に関する緩和策と適応策をベストプラクティスへと発展させ、それを普及しつつ、最も野心的な自治体を公に表彰することを目的としています。

OPCC に参加するためには、各自治体は気候変動に関する取り組み、戦略、データを、標準化された国際プラットフォームである [CDP-ICLEI Track](#) を活用して報告します。その報告プロセスの一環として、WWF は各自治体から報告された計画を、グッドプラクティスとしての気候変動対策計画の基準に照らして審査します。

参加自治体には、WWF の評価結果を記載したフィードバックレポートが送られます。これには、提出された目標が、地球温暖化を 1.5℃に抑えるというパリ協定の目標に合致しているかどうかの情報が含まれています。さらに、気候変動対策計画がその目標に対してバランスが取れているかどうかを検証し、目標を達成するための最も効果的な対策に関する高いレベルのガイダンスを提供します。

参加都市は、WWF が主催するキャパシティ・ビルディング・ウェビナーや、WWF の各国オフィスが特定の地域プログラムやイベントを運営する場合にはこれらにアクセスすることができます。これらのプログラムのトピック候補としては、食料、自然に根差した解決策 (NbS)、適応、プラスチック廃棄物、輸送など幅広い分野があります。

さらに、最も素晴らしい取り組みをしている自治体は、専門家からなる国際審査委員会の最終選考に進み、OPCC が設定した基準に従って、国内および国際優秀自治体を選出されます。選ばれた優秀自治体は、公に表彰を受け、その対策や計画を市民に推進するためのサポートを受けることができます。最終選考リストに残った自治体は、WWF の国際的なソーシャルメディアを活用した市民参加型キャンペーン「[We Love Cities](#)」に参加することができます。

OPCC は、他の複数の自治体向けイニシアティブと連携し、自治体の報告作業の負担を最小限にすることで、参加する自治体が最大限のメリットを得られるよう努めています。OPCC が求めるデータ要件は、世界気候エネルギー首長誓約 (Global Covenant of Mayors: GCoM) の共通報告フレームワークと一致しています。

OPCC は 2011 年の発足以来、着実に成長を続けています。現在までに、6 大陸 69 カ国から 700 以上の都市が少なくとも一度は OPCC に参加しています。

OPCC における 6 つの段階

OPCC は以下の 6 段階で進められます。



段階 1 登録と報告

OPCC に参加を希望する自治体は、以下の流れで登録と報告を行います。

1. CDP-ICLEI Track を通じて OPCC にご参加ください。当該システムにログインすると、利用可能なイニシアティブの一覧から OPCC 参加オプションを選択することができます。同システムのアカウントをまだお持ちでない場合は、CDP シティ担当 (cities.japan@cdp.net) にご連絡ください。報告内容（質問書）等詳細は[こちら](#)からご覧いただけます。
2. OPCC の報告要件に従って、CDP-ICLEI Track にデータを入力します。この報告要件は、世界首長誓約（GCoM）の共通報告枠組みにも沿っています。評価基準等の詳細については、こちらの[文書](#)をご参照ください。初回提出の期限は 2023 年 8 月 31 日です。この期限に間に合った自治体には、提出されたデータに対する最初のフィードバックが 10 月 1 日までに送られます。それを受けて、各自治体は 10 月 31 日まで報告データの訂正や更新を行うことができます。

段階 2 提出されたデータの WWF による評価

提出されたデータは、WWF の評価フレームワークと採点条件に沿って評価されます。これは、GHG 排出量と気候変動によるリスク、緩和と適応の目標、気候変動対策計画、戦略及び/または対策の実行、そして結果に基づくモニタリングまでのすべてのプロセスを通して包括的、環境十全的、かつ科学的根拠に基づいて検討されているかに着目します。採点条件は「[OPCC ASSESMENT FRAMEWORK](#)」でご覧いただけます。

一定の評価を受けた自治体は、ショートリストとして選定され、一か国につき 3 自治体までが、段階 4 の OPCC 審査委員会による評価へと進むことができます。

段階 3 フィードバックレポートの提供

参加自治体は、各自治体の気候変動に関する目標が地球温暖化を 1.5℃に抑えるための公平な分担と一致しているか、緩和策が主要な排出部門と一致しているか、適応策が気候リスクに効果的に対応しているかなどの評価をまとめたフィードバック報告書を受け取ります。OPCC の参加自治体は、地域／地方レベル、そして世界レベルでのキャパシティビルディングの機会に参加することができます。

段階 4 OPCC 審査委員会による評価

各国から最大 3 自治体を選ばれる最終選考リストの中から、都市の専門家からなる国際審査委員会¹が、国内および世界の優秀自治体を決定します。審査員は、候補となった自治体がどのように下記の点に取り組んでいるかに注目します：

- ・ 野心的で、統合された緩和と適応の中期および長期の目標
- ・ 幅広いステークホルダーの参加を前提とした、エビデンスに基づく行動計画および実施。
これは、自治体はその計画を実施する可能性を示し、またその計画が将来の意思決定においてどのように統合されるかを示す証拠となります。

さらに、今回の OPCC では、審査員によるオールスターズ優秀自治体の選出も行われます。オールスターズ自治体とは、前回 2022 年の OPCC 各国優秀自治体のうち、2022 年の水準を維持している都市で構成されます。オールスターズ優秀自治体に選ばれるということは、2022 年の結果に対して最も進歩または改善を示していることになります。

1 OPCC 専門家審査員は、都市問題に取り組む主要な国際機関、科学者や研究者、都市ネットワークなどを代表する、幅広い国の都市の持続可能性と気候の専門家で構成されています。審査員の詳細については、www.panda.org/opcc。

段階5 優秀自治体のプロモーションと世界表彰

審査員によって優秀自治体が決定されると、一連の授賞式、会議、プレスリリース、ソーシャルメディアへの投稿、ビデオなどを通じて、国内および世界の優秀自治体が発表、表彰されます。この目的は、表彰自治体の成功した気候変動対策を祝福し、気候変動の緩和と地域のレジリエンス構築に野心的な自治体にスポットを当てることです。WWF は、各自治体の進捗状況にかかわらず、OPCC への参加を呼びかけ、各自治体が持続可能性、レジリエンス、1.5℃への整合に向けた旅に乗り出すお役に立てることを楽しみにしています。

段階6 市民参画キャンペーン「We Love Cities」

最終選考リストとして残った各国最大 3 自治体は、市民参加型の国際キャンペーン「We Love Cities (WLC)」で紹介されます。WLC は、一般市民に、それらの自治体のうち一番好きな自治体に、応援の意志表明（投票）をしてもらい、さらなる改善に向けた提案の提出を呼びかけるキャンペーンです。詳細な情報は、[こちら](#)をご覧ください。

WLC を通じて、自治体は次のことができます。

- 地域レベルでなされた持続可能性の進捗に対する市民の認識を喚起、向上する。
- 一般市民に、彼らの選ぶ自治体を称え、投票し、自治体の意思決定者への提言を提出することによって改善する機会を提供する。
- 地域のコミュニティに感謝を伝えるとともに、市民と自治体間の結束を強くする。

パリ協定の野心に沿うために

2015 年、温室効果ガス排出削減のための共同コミットメントに約 200 か国が集まり、歴史的な協定「パリ協定」が調印されました。その目的は、「世界の平均気温の上昇を産業革命前の水準と比べて 2°C より十分低く抑え、1.5°C にとどめる努力を追求すること」でした。

その後、2018 年には、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が 1.5°C 特別報告書を発表し、1.5°C と比べ、2°C の地球温暖化が、人間や自然のシステムへどれほどより大きなダメージをもたらすのかを示しました。そして、地球温暖化をこの安全な限界にとどめるためには、世界の温室効果ガス排出量を 2030 年までに半分にし、遅くとも 2050 年までに、できるだけ早くゼロにする必要があると結論付けました。それゆえ、IPCC は、この 1.5°C という目標に照らして、自治体の行動計画と目標を評価するのです。

科学に基づく目標設定

自治体は、科学的根拠に基づく目標を設定することで、地球の気候システム¹を守るために必要とされる気候科学の知見に従って、適切なレベルの野心と適切なペースでの排出削減を計画・実施することができます。このアプローチにより、自治体は自身が設定した温室効果ガス削減目標を、公正で堅牢かつ実用的なベンチマークと比較することが確実に可能となります。

1 詳細については、以下をご参照ください：IPCC, 2014: Climate Change 2014: Synthesis Report. Contribution of Working Groups I, II and III to the Fifth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change [Core Writing Team, R.K. Pachauri and L.A. Meyer (eds.)]. IPCC, Geneva, Switzerland, 151 pp.



© Global Warming Images / WWF-Canon

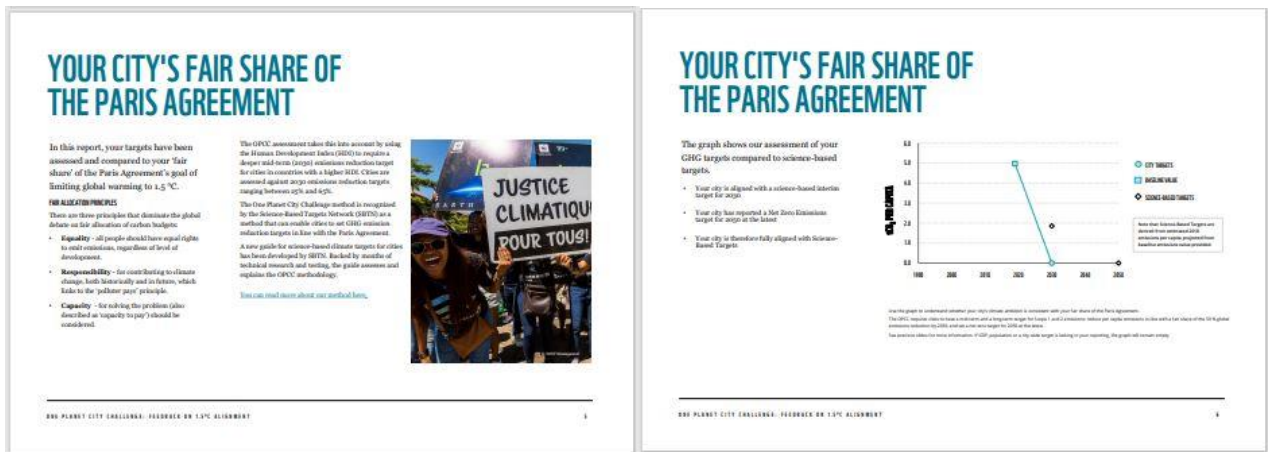
気候変動対策計画の証拠に基づく評価

深く全体論的な排出削減を目標とすることは重要なコミットメントですが、それは明確で実行可能な計画に裏打ちされるものでなければなりません。OPCC 評価フレームワークは、主要な気候変動対策計画フレームワークからの知見を組み込むことにより、これをサポートしています。OPCC 評価では、自治体の緩和策が、主な排出源や効率的な気候緩和を提供できる IPCC 戦略に合致しているかどうかをチェックします。また推定された気候リスクに関して気候変動対策が十分であるかどうかもチェックします。



戦略的フィードバックレポート

OPCC の評価の結果、「あなたの街の気候変動解決に向けた旅の評価」というタイトルで、参加自治体ごとにカスタマイズされたフィードバックレポートが作成されます。そのスコアは、一定の基準に基づいて決められます。スコアリングと評価の詳細については、[参加者向け情報ページ](#)でテクニカルドキュメントをご覧ください。



評価結果は、主に次の2つの面から示されています。

「ビジョン」は自治体のコミットメントと変革を推進する能力（例：GHG 排出量と気候変動によるリスクの評価、緩和と適応の目標、結果に基づくモニタリングなど）を表します。

「インパクト」は現在の自治体が行っている気候変動対策（緩和策や適応策の行動計画やその実施など）の削減ポテンシャルを表しています。

合計スコアが最も高い自治体が最終選考リストに掲載され、次のフェーズに進みます。1 か国につき最大3自治体を最終候補リストに残し、その中から審査員が国内優秀自治体を選出します。

レポートの一例やその他の情報は[こちら](#)をご覧ください。



私たちが目指すのは、世界各地
にワン・プラネット・シティを
作るサポートをすることです。
この唯一の惑星がもつ環境の限
界を超えることなく、すべての
人々が豊かに暮らせる都市を。

© 2023

© 1986 Panda symbol WWF – World Wide Fund for Nature (Formerly World Wildlife Fund)

®“WWF” is a WWF Registered Trademark.

WWF ジャパン（公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン）

〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 3 階 TEL: 03-3769-1711（代表）